

● 「2017 冬季アジア札幌大会」における ICT を活用した新たな観戦体験の提供について

2 月 19 日から開催される 2017 冬季アジア札幌大会において、日本電信電話株式会社など NTT グループと連携して、ICT 先端技術を活用した新たな観戦体験に関する実証実験を実施します。

これは、同社と平成 27 年 9 月に締結した「さっぽろまちづくりパートナー協定」に基づく取り組みの一環として、スポーツイベントの魅力向上に向けて行うものです。  
会場を訪れる方に、スポーツ観戦の新たな楽しみ方を提案したいと考えています。

1 ICT 先端技術を活用した新たな観戦体験について

- (1) 概要：2017 冬季アジア札幌大会の観戦者に、スマートフォン等のモバイル端末へ大会用アプリをインストールしてもらい、さまざまな新観戦体験サービスを提供する。
- (2) アプリ名：2017 冬季アジア札幌大会公式アプリ
- (3) 配信開始日（予定）：Android、iOS 版ともに 2 月初め（観戦機能は 2 月 10 日に追加）
- (4) サービス内容：

名称	内容	競技（会場）	日程（予定）
フリービューポイント映像 （自由視点映像） （世界初）※1	リンク周辺に設置した複数カメラで撮影した映像を 1 つの動画として生成。リプレイ映像を好きなアングルから視聴できる。	アイスホッケー （月寒体育館）	18～26 日
マルチアングル映像	会場内で撮影する放送用映像を自分でカメラを選択してライブ視聴できる。	① アイスホッケー （月寒体育館） ② フィギュアスケート （真駒内セキスイハイムアイスアリーナ）	①：18～26 日 ②：23～26 日
競技と連動したルール解説および選手紹介	試合の進行に合わせてリアルタイムでルール解説（アイスホッケー）や選手紹介（フィギュアスケート）ページが確認できる。		
カーリングのストーン情報配信	投球ごとのストーンの配置やスコアをリアルタイムで確認できる。	カーリング （どうぎんカーリングスタジアム）	18～24 日
VR※2 映像体験	VR 技術により選手の視点やストーンの目線で事前に撮影した競技映像を体験できる。（競技会場や雪まつり会場に設置するブースでも体験可能）		18～24 日 （雪まつり会場特設ブース：6～12 日）

※1 実際の競技大会において、ユーザ自身がスマートフォン上で操作できる事例として記載（NTT 調べ）

※2 バーチャルリアリティ（仮想現実）。主にコンピュータや電子技術を用いて、人間の視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚といった五感を刺激し、あたかも現実かのように体感させる概念や技術を指す。

- (5) 実証事業者：NTT グループ

問い合わせ先

（ICT 活用全般に関すること）

まちづくり政策局政策企画部（ICT 戦略・創造都市推進担当）

中村・松島 電話：211-2136、ファクス：218-5109

（スポーツイベントに関すること）

さっぽろグローバルスポーツコミッション（札幌市スポーツ局スポーツ部企画事業課（戦略誘致担当））

西村・瓦本 電話：200-0905、ファクス：200-0314

# 【別紙】実施イメージ(1/2)



Sapporo2017

対応OS :  
iOS・Andoird



## フリービューポイント映像 VOD (自由視点映像)

リンク周辺に設置した複数カメラで撮影した映像を一つの動画として生成。リプレイ映像を好きなアングルから視聴できる。

## マルチアングル映像 LIVE

会場内で撮影する放送用映像を自分でカメラを選択してライブ視聴できる。

## 競技と連動した ルール解説および選手紹介 LIVE

試合の進行に合わせてリアルタイムでルール解説（アイスホッケー）や選手紹介（フィギュアスケート）ページが確認できる。

## 【別紙】実施イメージ(2/2)

LIVE

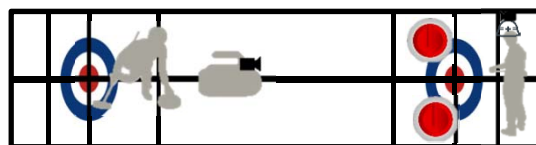
### カーリングのストーン情報配信

投球ごとのストーンの配置やスコアをリアルタイムで確認できる。



### VR映像体験

VR技術により選手の視点やストーンを目線で事前に撮影した競技映像を体験できる。



※競技会場や雪まつり会場に設置するブースでも体験可能